

2019年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年6月14日

上場会社名 株式会社エイチーム 上場取引所 東
 コード番号 3662 URL <https://www.a-tm.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 高生
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 社長室長 (氏名) 光岡 昭典 TEL 052-747-5573
 四半期報告書提出予定日 2019年6月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2019年7月期第3四半期の連結業績（2018年8月1日～2019年4月30日）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年7月期第3四半期	28,028	△1.1	2,175	△42.9	2,177	△43.5	1,100	△58.5
2018年7月期第3四半期	28,338	12.5	3,809	37.5	3,852	37.1	2,650	44.2

（注）包括利益 2019年7月期第3四半期 1,078百万円（△59.3%） 2018年7月期第3四半期 2,652百万円（44.4%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年7月期第3四半期	56.40	56.26
2018年7月期第3四半期	136.82	136.27

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年7月期第3四半期	16,956	12,144	71.1
2018年7月期	16,702	11,655	69.3

（参考）自己資本 2019年7月期第3四半期 12,058百万円 2018年7月期 11,569百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年7月期	—	0.00	—	32.50	32.50
2019年7月期	—	0.00	—		
2019年7月期（予想）				16.00	16.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2019年7月期の連結業績予想（2018年8月1日～2019年7月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	37,000	△1.8	2,850	△39.4	2,850	△39.7	1,500	△54.6	76.89

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年7月期3Q	19,742,400株	2018年7月期	19,738,200株
② 期末自己株式数	2019年7月期3Q	228,762株	2018年7月期	253,762株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年7月期3Q	19,509,070株	2018年7月期3Q	19,374,459株

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎となる期中平均株式数については、「株式付与ESOP信託」及び「役員報酬BIP信託」制度において、日本マスタートラスト信託銀行株式会社（株式付与ESOP信託口及び役員報酬BIP信託口）が保有する株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間についても百万円単位で表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当社グループは「みんなで幸せになれる会社にする事」、「今から100年続く会社にする事」を経営理念としております。この経営理念のもとすべての役員及び従業員が一丸となり、さまざまな技術領域・ビジネス領域において、インターネットを通じて個人の利用者の皆様に支持・利用していただけるゲームコンテンツ、比較サイト・情報サイトやECサイトなどの企画・開発及び運営を行っております。具体的には、「人と人とのつながりの実現」をテーマに、世界中の人々に娯楽を提供するスマートデバイス（スマートフォン及びタブレット端末）向けゲームやツールアプリケーションの企画・開発及び運営を行う「エンターテインメント事業」、人生のイベントや日常生活に密着し、有益な情報を提供する比較サイト・情報サイトなど、様々なウェブサービスの企画・開発及び運営を行う「ライフスタイルサポート事業」、自転車専門通販サイトの企画・開発及び運営を行う「EC事業」の3つの事業軸でビジネスを展開しております。

2019年7月期第3四半期連結累計期間は、売上高につきましては、エンターテインメント事業及びEC事業が前年同期比で減少となったものの、ライフスタイルサポート事業が好調に推移し、全体では前期比で横ばいとなりました。一方、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、ライフスタイルサポート事業において新規サービスへの先行投資に加え、エンターテインメント事業における利益寄与の減少により、前年同期比で減少となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は28,028百万円（前年同四半期比1.1%減）、営業利益は2,175百万円（前年同四半期比42.9%減）、経常利益は2,177百万円（前年同四半期比43.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,100百万円（前年同四半期比58.5%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の経営成績は以下のとおりであります。

<エンターテインメント事業>

エンターテインメント事業では、自社で開発したオリジナルスマートデバイス向けゲームアプリケーション（以下「ゲームアプリ」）をApple Inc.が運営するApp Store及びGoogle Inc.が運営するGoogle Play等の専用配信プラットフォームを通じて、世界中の人々に提供しております。ゲームアプリ自体は基本無料で提供し、ユーザーがゲームをより効率よく優位に進めるためのアイテムを購入することで、そのアイテム購入代金がゲームアプリとしての売上となります。

2019年7月期第3四半期連結累計期間は、既存ゲームアプリが減収傾向にある中、新規ゲームアプリ「少女☆歌劇 レヴュースタァライト -Re LIVE-」の国内版を2018年10月にリリースし、さらにグローバル版を4月24日にリリースしたものの、国内外で収益寄与が限定的だったため、エンターテインメント事業は前年同期比では減収減益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるエンターテインメント事業の売上高は10,114百万円（前年同四半期比19.2%減）、セグメント利益は1,257百万円（前年同四半期比57.3%減）となりました。

<ライフスタイルサポート事業>

ライフスタイルサポート事業では、引越し関連、自動車関連、ブライダル関連、金融メディア等様々な事業領域において個人の利用者に向けてサービスを展開する事業者と提携し、「三方よし」のサービス理念のもと、人生のイベントや日常生活に密着した比較サイト・情報サイト等様々なウェブサービスを展開しております。個人の利用者へは基本無料でサービスを提供し、パートナー企業に当該利用者を見込客として紹介することに対する紹介手数料及び成約報酬が主な売上であります。

当セグメントでは、サブセグメントとして、引越し関連事業、自動車関連事業、ブライダル関連事業、金融メディア事業、その他があります。

2019年7月期第3四半期連結累計期間は、ブライダル関連事業を筆頭に好調に推移しました。ブライダル関連事業は、サービス名称変更後の認知度及びサービス信頼度向上に伴い送客件数が順調に増加し、売上高が大幅に増加いたしました。なお、各サブセグメントにおいて既存事業の育成に加え、引き続き周辺サービスを拡充し、また、立ち上げ段階にある複数の新規サービスへの先行投資を計画通り行ったため、セグメント利益は前年同期比で横ばいとなりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるライフスタイルサポート事業の売上高は16,377百万円（前年同四半期比18.3%増）、セグメント利益は2,351百万円（前年同四半期比1.6%増）となりました。

<EC事業>

EC事業では、国内外から仕入れた200種類以上の完成品自転車を専属のプロ整備士により整備を行い完全組立自転車としてオンラインで販売、自宅までお届けする自転車専門通販サイトを展開しております。

当セグメントにおける主な売上は自転車の販売代金であります。

2019年7月期第3四半期連結累計期間においては、売上高が前年同期比で減少となり、セグメント損失は前年同期比でやや縮小となりました。引き続き事業の黒字化に向けて、出荷効率の向上等、物流オペレーションを見直した結果、3月の繁忙期においては単月黒字化を達成するなどの改善が見られました。今後も運営の最適化に向け、フルフィルメントの強化を行ってまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるEC事業の売上高は1,535百万円（前年同四半期比22.4%減）、セグメント損失は166百万円（前年同四半期は190百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は16,956百万円となり、前連結会計年度に比べ253百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の減少980百万円があったものの、受取手形及び売掛金の増加273百万円、投資有価証券の増加896百万円によるものであります。

② 負債

当第3四半期連結会計期間末における負債は4,811百万円となり、前連結会計年度に比べ236百万円減少いたしました。これは主に、長期預り保証金の増加200百万円があったものの、未払法人税等の減少432百万円によるものであります。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は12,144百万円となり、前連結会計年度に比べ489百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金の増加466百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向け、2019年7月期においても引き続き、各セグメント事業の強化・拡大を図るとともに、新たな事業の創出に向けた先行投資を進めながら事業ポートフォリオの強化を図ってまいりました。そのためにも人材獲得・人材育成及び環境整備・組織体制の強化に注力しております。

上記戦略のもと、2019年7月期は、新たなサービスへの先行投資や人材・組織体制の強化等、次期以降の更なる成長に向けて、事業ポートフォリオの強化及び事業を支える基盤強化の1年として位置づけ、通期連結業績を予想しておりましたが、業績の動向等を踏まえ、2019年9月7日に公表いたしました2019年7月期通期連結業績予想及び期末配当予想を下記の通り修正させていただきます。

通期連結業績の見通しは次のとおりであります。

売上高に関しまして、ライフスタイルサポート事業の売上が期初予想をやや上回り推移しているものの、エンターテインメント事業及びEC事業が期初予想を下回る推移となり、全体では売上が未達で着地する見込みであります。エンターテインメント事業は既存・新規ゲーム共に売上が期初予想を下回り、新規は主に「三国BASSA!!」が改修からの立ち上げが期待に及ばず、期初計画から乖離が広がりました。EC事業は、物流オペレーション再構築を優先した結果、売上が期初予想を下回る着地となる見込みであります。

なお、営業利益、経常利益につきましては、主にエンターテインメント事業の売上の減少に伴う利益の減少に加え、新規ゲームの開発に向けた人員の増加による利益寄与の減少及びEC事業の黒字化未達に伴い、期初の予想を下回る着地となる見込みであります。

さらに、当第3四半期連結会計期間において、「三国BASSA!!」に係る開発費等のソフトウェア資産を中心に432百万円の特別損失を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益が予想を大幅に下回る見込みであります。

以上を踏まえ、2019年7月期通期連結業績予想数値を以下の通り修正いたしました。

上記の将来に対する記述、以下の業績予想数値は、本資料発表日現在において当社グループが入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により変動する可能性があります。

2019年7月期通期業績見通し（2018年8月1日～2019年7月31日）

売上高	37,000百万円（前連結会計年度比 1.8%減）
営業利益	2,850百万円（前連結会計年度比 39.4%減）
経常利益	2,850百万円（前連結会計年度比 39.7%減）
親会社株主に帰属する当期純利益	1,500百万円（前連結会計年度比 54.6%減）

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,984	5,003
受取手形及び売掛金	4,128	4,402
たな卸資産	679	612
その他	706	1,064
貸倒引当金	△10	△5
流動資産合計	11,488	11,077
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,285	1,333
その他（純額）	398	408
有形固定資産合計	1,684	1,742
無形固定資産		
のれん	1,109	1,011
その他	961	589
無形固定資産合計	2,070	1,600
投資その他の資産		
投資有価証券	374	1,270
敷金及び保証金	686	777
その他	407	496
貸倒引当金	△8	△10
投資その他の資産合計	1,459	2,535
固定資産合計	5,214	5,878
資産合計	16,702	16,956

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2018年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	465	372
短期借入金	100	—
1年内返済予定の長期借入金	33	—
未払金	2,417	2,604
未払法人税等	718	285
賞与引当金	—	75
販売促進引当金	12	28
株式給付引当金	43	20
その他	672	692
流動負債合計	4,464	4,080
固定負債		
長期借入金	52	—
資産除去債務	484	487
長期預り保証金	—	200
その他	45	43
固定負債合計	583	731
負債合計	5,047	4,811
純資産の部		
株主資本		
資本金	835	835
資本剰余金	829	829
利益剰余金	10,383	10,850
自己株式	△481	△438
株主資本合計	11,566	12,077
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	△6
為替換算調整勘定	2	△12
その他の包括利益累計額合計	2	△18
新株予約権	85	85
純資産合計	11,655	12,144
負債純資産合計	16,702	16,956

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年8月1日 至 2018年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年8月1日 至 2019年4月30日)
売上高	28,338	28,028
売上原価	5,085	5,601
売上総利益	23,253	22,426
販売費及び一般管理費	19,444	20,251
営業利益	3,809	2,175
営業外収益		
受取利息	0	0
投資事業組合運用益	40	—
受取手数料	4	9
助成金収入	2	11
その他	10	6
営業外収益合計	56	27
営業外費用		
支払利息	1	0
投資事業組合運用損	—	16
支払手数料	—	7
為替差損	9	1
その他	2	0
営業外費用合計	13	26
経常利益	3,852	2,177
特別利益		
新株予約権戻入益	2	—
特別利益合計	2	—
特別損失		
減損損失	—	298
投資有価証券評価損	—	134
特別損失合計	—	432
税金等調整前四半期純利益	3,854	1,744
法人税等	1,204	644
四半期純利益	2,650	1,100
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,650	1,100

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年8月1日 至 2018年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年8月1日 至 2019年4月30日)
四半期純利益	2,650	1,100
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△6
為替換算調整勘定	1	△14
その他の包括利益合計	1	△21
四半期包括利益	2,652	1,078
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,652	1,078

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

（セグメント情報）

前第3四半期連結累計期間（自 2017年8月1日 至 2018年4月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンターテインメント事業	ライフスタイルサポート事業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,511	13,848	1,978	28,338	—	28,338
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	12,511	13,848	1,978	28,338	—	28,338
セグメント利益又は損失 (△)	2,949	2,314	△190	5,073	△1,263	3,809

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△1,263百万円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

前第2四半期連結会計期間に実施したIncrements株式会社の企業結合について、取得原価の配分が完了していなかったため、のれんの金額は暫定的に算出された金額でありましたが、前連結会計年度末に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれんの金額を修正しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2018年8月1日 至 2019年4月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンターテインメント事業	ライフスタイルサポート事業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,114	16,377	1,535	28,028	—	28,028
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	10,114	16,377	1,535	28,028	—	28,028
セグメント利益又は損失 (△)	1,257	2,351	△166	3,443	△1,267	2,175

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△1,267百万円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「エンターテインメント事業」セグメントにおいて、当社が保有している固定資産のうち、その収益性が低下しているものについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては298百万円であります。